

## James Albert Joyce 教授略歴・主要論文

## — 略 歴 —

## 学 歴

- 1925年 4月 アメリカ合衆国カンサス州ミネアポリスに生まれる  
 1939年 5月 ミネアポリス・ジュニア・ハイスクール 卒業  
 1943年 5月 ミネアポリス・ハイスクール 卒業  
 1950年 6月 カンサス・ウエスレアン大学 卒業 (B. A)  
 1953年 6月 カンサス州立大学 (農学) 卒業 (B. S)  
 1955年 6月 東京日本語学校  
 1959年 6月 カンサス州立大学大学院 修了 (M. S)  
 1971年 6月 コールネル大学農学部  
 1979年 3月 Pendle Hill-A Quaker for Study and Contemplation

## 職 歴

- 1953年 6月 メソジスト教宣教師  
 1953年 9月 農村伝導のため日本に着任  
 1955年 9月 鎮西学院高等学校にて一般農業担当  
 1964年 7月  
 1966年 10月 関西学院大学社会学部専任講師  
 1970年 4月 関西学院大学社会学部助教授  
 1976年 4月 関西学院大学社会学部教授  
 1989年 4月 学校法人関西学院理事

## — 学会および社会における活動 —

- Organization Memberships :  
 Consortium On Peace Research and Education  
 Japan Peace Research Association  
 International Peace Research Association  
 Fellowship of Reconciliation  
 International Fellowship of Reconciliation

## — 学術論文 —

- Digestion Studies on Varying Levels of Grain and Alfalfa Fed Non-Pelleted, Pelleted and pelleted Plus Hay to Lambs. 1959年 5月  
 Agricultural Cooperative Organizations in Japan 1970年12月  
 Report on Cost Account Farm #820—Thomas Rhodes and Henry Roberts, Big Flats, N. Y. (With P. Gordon, D. Handy, D. Hebbard, J. McLean, D. Rew) 1970年12月

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| Brief Report of Studies in Soil Erosion and Silting, Its Extent,<br>Some Results and Efforts Made to Alleviate The Problem In the U. S. | 1971年2月                  |
| Animal Wastes and Air Pollution   | 1971年4月                  |
| Design Of An Oxidation Ditch For A Japanese Dairy Herd<br>(With Robert J. Sherman)  | 1971年6月                  |
| Peace Education: Necessity For Survival Paper delivered to the 1988<br>Spring Symposium of the Japan Peace Research Association, Kyoto  | 1988年6月                  |
| 平和教育：残存の必然事柄 日本平和学会春季大会 於：京都  | 1988年6月                  |
| Peace Education : A Necessity for Survival  | 社会学部紀要第63号<br>関西学院大学社会学部 |
|   | 1991年3月                  |

## 社会学部報

### ◇学部講演会および研究会

- 1993年10月12日（学部講演会）  
講師 アンリ・ピエール・ジュディ 氏  
フランス・国立科学研究所研究員  
「都市、メディア、カストロフイーの記号論」
- 1993年10月27日（研究会例会）  
講師 中西 良夫 氏  
「Peading Process と Reading Styategy について—散文（Prose）に限定して—」

### ◇社会学部教職員人権問題研修会

- 1993年10月27日  
講師 西原 由起子 女史  
自殺防止センター 事務局長  
「共に生きる」

### ◇海外出張

- 眞鍋 一史 教授  
1993年10月8日から10月11日まで  
中国人民大学世論研究所と「中国における価値観変化と科学技術」の共同研究のため北京に海外出張する
- 浅野 仁 教授  
1994年1月10日から1月17日まで  
研究演習Ⅱ研修旅行のためスウェーデンおよびデンマークの老人ホームへ海外出張する。
- 鳥越 皓之 教授  
1994年3月10日から1994年3月24日までモンゴル国の環境政策の調査のためモンゴルへ海外出張する。
- 鳥越 皓之 教授  
1994年3月28日から1994年3月31日まで授業  
「社会学実習Ⅰ・Ⅱ」の調査実習指導のため韓国晋州市および周辺農村に海外出張する。

### ◇会員の新著書

- 森川 甫 教授  
（共訳）「パスカル全集第1巻 一生涯の軌跡一」白水社 1993.11

- 倉田 和四生教授・山本 剛教授  
（訳編）「カナダ移民族社会の構造—エスニック集団はなぜ存続するか—」晃洋書房1994.4
- 中野 秀一郎 教授  
（分担執筆）「新しい日本観・世界観に向かって」国際書院 1994.2
- 船本 弘毅 教授  
（監修）「旧約聖書ものがたり」創元社 1993.12  
（監修）「新約聖書ものがたり」創元社 1993.12
- 眞鍋 一史 教授  
（分担執筆）「JAPANSTUDIEN」Deutschen Instituts Fur Japanstudien 1993  
（共同研究）「交流と共生の時代に望まれる新しい地域コミュニティの形成に関する研究」（財）21世紀ひょうご創造協会 1993.3
- 鳥越 皓之 教授  
（著書）「地域自治会の研究」（関西学院研究叢書第68編）ミネルヴァ書房 1994.2
- 浅野 仁 教授  
（編著）「日本の施設ケア」中央法規出版 1993.9  
（分担執筆）「高齢者ケア実践事例集」第一法規 1993.8  
（分担執筆）「長寿社会のトータルビジョン」第一法規 1993.12
- A. ブレイディ 助教授  
（校閲）「ヤングジーニアス英和辞典」大修館書店 1992.4  
（分担執筆）「A Handbook for Teaching English at Japanese Colleges and Universities」Oxford University Press 1993

## 学会消息

### ◇民族・人種・文化間コンクリクト・マネジメント研究会

第5回研究会が、1993年7月17日(土)、慶応義塾大学新研究館会議室で開かれた。今回は法律の問題に焦点を合わせて、内外の弁護士および在日外国人の方々とともに講論が展開された。コーディネーターは奥羽大学の渡辺文夫助教授。本学からは真鍋一史教授が出席し、討論に参加した。

### ◇情報通信学会関西支部研究会

1993年度の研究会(主査:真鍋一史関西学院大学教授)は以下のように開催された。なお会場はすべて電通関西支社8階ホールであった。

- ①7月27日(火)、発表者:小林貞夫(愛知学院大学教授)、テーマ:ネットワーク指標への挑戦
- ②9月22日(水)発表者:津金沢聡廣(関西学院大学教授)、立木茂雄(関西学院大学助教授)、テーマ:情報化社会のイメージと情報機器の利用行動
- ③10月7日(木)、発表者:端信行(国立民族学博物館教授)、テーマ:情報環境の形成と文化
- ④12月2日(木)、発表者:真鍋一史(関西学院大学教授)、テーマ:情報の収集・整理・加工・保存・活用—データ・ライブラリー設立の提案

### ◇応用教理学会年会

1993年9月16日~18日に龍谷大学理工学部において開催され、本学からは高坂健次教授が「E-state structuralism について」と題して特別講演を行った。

### ◇第66回日本社会学会大会

1993年10月10・11日(日・月)の2日に亘って東洋大学で開催されたが、本学関係者の活躍は次の通り。

まず、一般研究報告部会では、宮原浩二郎助

教授が「文化・社会意識 I」で、また遠藤惣一教授が「産業・労働・組織 3」で各々司会の労をとった。正村俊之助教授はテーマ部会1「ルーマン理論の射程」に討論者として参加した。また、一般研究報告を行ったものは次の4名であった。以下その部会と報告テーマを紹介する。

川久保美智子助教授「産業・労働・組織 1」『日中社員の意識比較』

遠藤英樹(大学院生)「同上」『作業組織における小集団活動に内石するメカニズムの役割』

藤村美穂(大学院生)「地域と環境」『非環境的な自然観—聞きとり調査を手がかりに』

三浦耕吉郎専任講師「差別・マイノリティ 1」『運動リーダーシップとムラ規範』(但し、これは共同研究報告「被差別部落の社会文化史」の一部)。

### ◇数理社会学会第16回大会

1993年10月12~13日に東京都立大学にて開催され、本学からは高坂健次教授が出席した。まず、高坂教授は2期4年間つとめた会長を退いた。

### ◇日本広告学会

日本広告学会第24回全国大会が、1993年10月14日(木)~16日(土)、広島修道大学において開催された。今年度の大会テーマは「広告のアイデンティティを探る」であったが、本学からは真鍋一史教授が出席し、統一論題のセッションで、「広告の国際化と文化的アイデンティティ」と題する研究報告を行った。また、吉備国際大学の栗田真樹助手は「消費者関与の概念化と測定法—先行諸研究の系統的整理課題—」というテーマで研究成果を発表した。

### ◇日本社会心理学会

日本社会心理学会第34回大会が1993年10月30日(土)と31日(日)の両日、東京大学において開催された。本学からは真鍋一史教授が出席し、「文化・国際比較(口頭・ロング発表)」のセッションの座長を担当するとともに、「日中相互イメージの構造—通時間的変化の構造を中

心として」と題する研究発表を行った。

#### ◇ドイツ日本研究所開設 5 周年記念講演会

1993年11月4日（木）と5日（金）の両日、国連大学大会議場において記念講演会が開催されたが、本学からは真鍋一史教授が出席した。

#### ◇ドイツ日本研究所とフリードリヒ・エーベルト財団主催の国際会議

国際会議のテーマは「貿易摩擦の政治経済学」で1993年12月11日（土）と12日（日）の両日、早稲田大学国際会議場で開催され、またレセプションが11日（土）の夜、ドイツ大使館で開かれた。本学からは真鍋一史教授が出席し、討論に参加した。

#### ◇関西学院大学社会福祉セミナー

第3回関西学院大学社会福祉セミナーは、1994年2月20日（日）に、本学B号館において開催された。本学の卒業生で、主として阪神間に在住の社会福祉関係従事者、研究者、教員約130名の出席をえた。荒川義子教授がセミナー・シンポジウムで「社会福祉実習のスーパービジョン」について、基調報告を行い、シンポジウムのコーディネイトを行った。

執筆者紹介 (掲載順)

遠藤 惣一	関西学院大学教授	渡辺 文夫	東北大学助教授
牧正英	関西学院大学教授	石川 明	関西学院大学教授
西山美瑳子	関西学院大学教授	川久保美智子	関西学院大学助教授
佐々木薫	関西学院大学教授	杉山 貞夫	関西学院大学教授
森川 甫	関西学院大学教授	浅野 仁	関西学院大学教授
中野 秀一郎	関西学院大学教授	張 凡	関西学院大学客員研究員
紺田 千登史	関西学院大学教授	アラン・ブレイディ	関西学院大学助教授
眞鍋 一史	関西学院大学教授	渡辺 顕一郎	関西学院大学大学院
ベス・ハルミ	スタンフォード大学教授		社会学研究科研究員

社会学部研究会会員

会 長	西山美瑳子								
運営委員	中野秀一郎	牧正英	春名純人						
	鳥越皓之	荒川義子	正村俊之						
会計監査	中山慶一郎	宮田満雄							
書記	岡部衛一郎								
名誉会員	本出祐之	小関藤一郎	萬成家博						
	西尾朗	岡村重夫	領家穰						
	嶋田津矢子	定平元四良	杉原方雄						
	清水盛光	田中 國夫	枋原知雄						
	( A B C 順 )								
普通会員	倉田和四生	杉山 貞夫	半田 一吉						
	武田 建	遠藤 惣一	佐々木 薫						
	森川 甫	張 光夫	J.A. ジョイス						
	船本 弘毅	津金澤 聰廣	紺田 千登史						
	村川 満	眞鍋 一史	山路 勝彦						
	山本 剛郎	高田 眞治	安藤 文四郎						
	浅野 仁	高坂 健次	中西 良夫						
	石川 明	對馬 路人	芝田 正夫						
	芝野 松次郎	宮原 浩二郎	立木 茂雄						
	A. ブレイディ	川久保美智子	荻野 昌弘						
	三浦 耕吉郎	谷 直子							

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1-155 関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

#### 第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

### 第5章 総 会

#### 第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めたととき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

#### 第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

### 第6章 会 計

#### 第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

#### 第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

### 付 則

#### 第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

#### 第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

#### 第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。



## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」（以下、本紀要という）は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞（安田賞）受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会員とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会員の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会員と共同研究をおこなった者とする。
 

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会員による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。
 

図凸版（トレース、写植代）は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
  - ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。
 

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会員、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

＜編集後記＞

ジェイムズ・アルバート・ジョイス教授は、約28年の長きに亙り、学院のため、大学のため、学部のために尽くされ、この度び、定年をお迎えになりました。本社会学部では、「社会学部紀要」第70号を「ジョイス教授記念号」として、ジョイス先生に献呈することになりました。先生の貢献の詳しいことは、巻末の略歴を参照して頂くとして、宣教師としてのお働きの他に、教師としての先生の活動は、キリスト教科目、英語科目、人文演習、総合コースなど、多岐に亙っていました。

先生は、信念の人でした。時々、カウボーイ・ハットの先生をお見かけすることがありました。胸にワッペンが光っていました。シェリフのそれではなくて、非暴力のワッペンでした。非暴力主義を静かに訴え、本学における平和学の基礎（いしづえ）を築かれました。将来、本学で平和学が発展するとすれば、この基礎の上に、この石切り場から切り出された石が用いられると思います。一方、この非暴力的平和を説く愛の人は、同時に、正義の人でした。あの学園紛争の頃、全共闘の暴力の脅しには、毅然とした態度を取られ、一步も退かれませんでした。平和と非暴力の信念を貫き通すには、大変な勇気と力を必要とします。愛と義は、表裏一体となっていなければ、どちらも成り立たないと思います。

チャペルの説教は、英語で通されました。先生のチャペル説教の特色は、その日の聖書のテキストに、きちんと基づいて、バシフィズムを諄々と説くものが多かったと思います。現代っ子の学生たちも、不思議と静かに良く理解している雰囲気でした。ご自分の説教当番ではないときは、講壇の後ろの教師席で、讚美の美しいテノールを響かせ、妙なるハーモニーを醸し出されました。

先生は、平和とハーモニーの象徴でした。先生が学院を去ってしまわれる日を想像すると、淋しいことです。宣教師としての定年は、もう少し先とのことですので、少し、安心です。学院にも、世界にも、先生の目指された理念である、非暴力と平和、真理を犠牲にしない一致とハーモニーが広がっていくよう祈ります。

この記念号に、多くの力作、雄編をお寄せ下さった先生方、執筆者の方々に感謝いたします。69号の「半田教授退職記念号」と同時出版ですので、論文、研究ノートなど、両号への振り分けは、うまくいっているでしょうか。お叱りがなければ幸いです。

いつものことながら、今回も煩雑な出版実務で、大変ご苦労をかけ、お世話になりました。社会学部事務室の事務主任速水幸一さんと染谷通子さんに篤く御礼申し上げます。  
(春名)

1994年3月1日 印刷

1994年3月10日 発行

編集発行人 西山美瑛子

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798) (53)6111(代表)

(内線) 4212

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒660 尼崎市北大物町16-55

電話 (06)481-0707(代)

**KWANSEI GAKUIN**

**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 70

March 1994

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---